

**本実践（研究）のポイント（高校教育指導課指導主事 宮本洋子）**

本実践は、生活体験や看護臨地実習の経験の少ない生徒にとって、事例を提示しても、事例場面をイメージすることが難しい事を想定し、事前の視聴覚教材を用いた課題や、イラスト KYT、シミュレーション演習を活用し、実際の生活環境を具体的に想像させ、生徒が自ら課題を見つけ解決策を見出す探究的な思考を促すよう工夫された授業実践となっています。

また、発問の工夫により、生徒の興味関心や好奇心を刺激し、思考が深まる対話的な学びにつながるよう工夫がなされています。

## 1 はじめに

本単元では、転倒・転落や誤薬を含む多様な事故を防止するため、事例を取り上げた演習などを通して、状況に応じた危険を予測し、生活環境の安全を図るための臨床実践能力を身に付けることができる。また、看護師の法的責任について意識付けるとともに、事故の発生原因や再発防止・未然防止について考える態度を養う。安全管理についてチームで情報を共有し、患者の生活環境の安全を図る重要性を理解することが大切である。

## 2 問題の所在

生徒は5年一貫看護教育の1年生である。これまで基礎看護技術の校内実習を6項目行っており校内実習中にヒヤリハットを感じた生徒が63.4%存在している。また、看護臨地実習で医療事故を起こさないか不安であると回答した生徒は92.7%である。

## 3 具体的な取組み

- (1) 生徒は事前に、危険予知トレーニング動画を視聴する。
- (2) 授業では、動画、イラストの場面を再現し、シミュレーション演習を行う。
- (3) 環境整備や、患者を尊重する態度に関する既習の知識を用いて考え実践できるワークを行う。
- (4) 生徒の好奇心を刺激し、生徒が楽しみながら学べる発問を繰り返し行う。
- (5) 看護臨地実習の実践につながるまとめを行う。

## 4 成果と課題

限られた時間でシミュレーション演習を効果的に行うための事前課題として、視聴覚教材を用いた。生徒は事前課題により授業前から安全管理についての興味・関心が高まっており、授業内容や、本時の目標を意識して取り組むことができた。また、基礎看護技術の校内演習で生徒が経験したヒヤリハット事例のアンケートを集計し、生徒に提示したことにより、病院での安全管理を自分事として捉え、主体的に思考を深めることができていた。

次に、イラスト KYT の場面を実習室に再現し、リアルな場面を視覚的に見せることにより、患者の姿勢の意味を考えたり、次の動作を予測したり、生徒が自ら課題を見つけ解決策を見出そうと学習する様子を見ることができた。しかし、ワークシートへ他者の意見を追記することができない生徒もいた。事前にワークシートの活用方法についても指導が必要である。また、グループワークでは、思考のスピードや発信する力が生徒によって違うことがあるので、普段の授業から生徒間でお互いの意見を引き出せるようなグループワークとなるよう助言を行う必要がある。

## 5 おわりに

生活体験や看護臨地実習の経験の少ない生徒にとって、医療や看護の学習はイメージが難しい場面や事例も多くある。シミュレーション演習では、臨地の場を想像する機会を作ることができる。生徒が学習する内容にかかわらず、指導方法や教材を工夫し、生徒が興味を持つことができるような事前課題を設定することで能動的学習を促進するとともに、効果的な学習となると考えている。今後も生徒が興味、関心を持って学習し、自ら学びを深められるような授業づくりを実践していきたい。